pan-seto inland sea congress

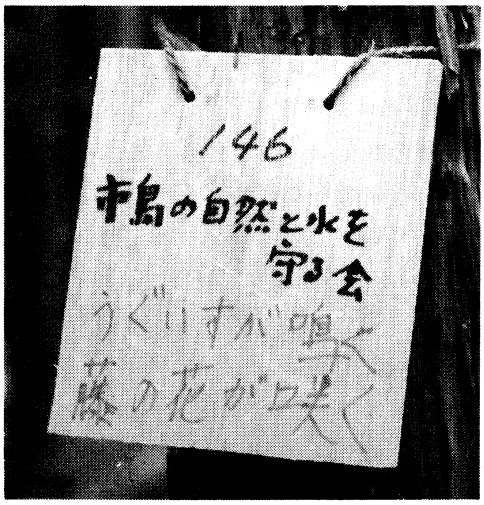
瀬戸内トラストニュース

16号 '98年6月

環瀬戸内海会議　編集・発行 / 編集委員会

山と海のつながりを想う

兵庫県市島町 1991年にゴルフ場は中止。「オーナーとの契約は2000年まで」と、札のかけかえ作業を行う市島の自然と水を考える会。(1998. 5)



目　次

岩国基地沖藻場で捨て石工事始まる(湯浅一郎) …… 1
稚ナマコの分布からみた自然海岸の重要性(浜野龍夫) …… 2
弓削島から瀬戸内海をみる(瀬戸内法改正プロジェクト) …… 3
8年目の弓削島(青木敬介) …… 4
直島町(香川県)ゴルフ場中止記念座談会…… 5.6
報告・アースデーかがわin豊島(松本宣崇) …… 7
〃　(木村伸樹) …… 8
第9回総会にむけて、広瀬からの報告 …… 9.10
(広瀬の自然と環境を守る会青年部)

岩国基地沖埋め立て
藻場で捨て石工事始まる
防衛施設庁に抗議の声を！

湯浅一郎
（環瀬戸内海会議顧問）

岩国基地沖の埋め立てが昨年６月１日に着工され一年が経過した。この埋め立てで計８３ｈａ強の藻場・干潟が消滅するため、環境庁が「代償になる藻場・干潟の造成」を条件に埋め立てに認可をおろした。事業主である広島防衛施設局は、環境庁の意見に対し一定の努力をせざるをえなくなり、国の認可がおりる直前の９６年１１月に藻場・干潟回復調査研究委員会を設置し、この間は、藻場の消失が伴わない工事を進めるという話であった。しかし、消滅する藻場・干潟の代替措置をどこまで本気で実施するかについては、工事が始って１年たつ今も明らかになっていない。それどころか藻場・干潟回復はポーズにすぎない疑いを実証する事態が発生している。

この間の工事は南工区で行われてきたが、５月１１日に始まった護岸の基礎工事用の捨て石投入がアマモ場にかかっていることがわかった。しかも２月初旬から４月にかけて５１００m²にわたってアスファルトマットを打ち、その時点でかなりの数のアマモが消えたと思われる。消失したアマモ場の面積と、株数は明らかにされていないが、２０万株程になるとみられる。調査委員会では、２００２年までに研究結果を出すとしている。しかし１年目の工事で既に幾ばくかのアマモをつぶす工事が行われてしまったことについて委員会は何一つ問題にしていない。

さらに南工区には、昨年度の監視調査報告書の中でも、約９．１ｈａ、計６４４万株ものアマモがあることになっているが、これらの藻場も、工事でつぶされてしまう可能性がある。広島市の出島においては、たった（？）の２．２ｈａのアマモをつぶす埋め立て計画について、まがりなりにも、そのすべてを別の地点に移植する事業が行われた。もちろん、出島の場合、必ずしも成功しているわけではないが、少なくとも消失するものの代替措置になるべく努力したことだけは確かである。

また１年間の委員会の検討状況についてはほとんど公開されていない。それでいて９５年から「基地沖のアマモ場の裸地に約４５０株のアマモを移植する実験」では「アマモが順調に成長、周囲の天然アマモ場と同じか、それを上回る速さで増えている」などと、移植実験の成功を宣伝している。しかし仮に移植実験がうまくいっているとしても、わずか約４５０株の試験をするのと平行して、他方で、既に一部の工事で、その数百倍にも当たるアマモをつぶしてしまったこととは相矛盾している。移植実験は、消失する藻場を何らかの形で再生させようとするものではないことが明らかになりつつある。

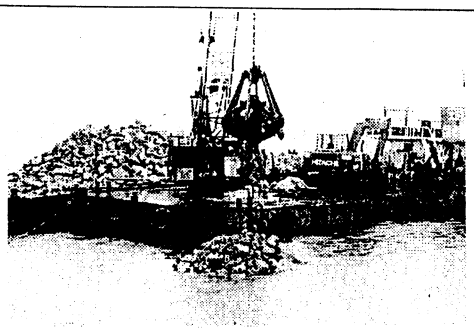
環境監視報告書によると、最終的につぶれる４５ｈａの藻場にあるアマモの株数は、実に３２５４万株にもなるが、これらの全体の損失を補償する膨大なエネルギーを注ぐ覚悟があるのかどうかを明らかにさせる必要がある。

以上の事情についてピースリンクでは、６月３日、委員及び防衛施設局に対し、公開質問状を提出する。それへの対応を材料にして、環境庁、山口県、岩国市が、防衛施設局に対し強く働きかけていくような道筋をつくりたい。そのためにも、防衛施設局への抗議と、環境庁への要請をお願いしたい。

また、埋め立ての元になっている米海兵隊は、岩国を始めとした日本にいらないと言う意見広告をアメリカ市民に直接届けようと言う取り組みが、沖縄、湯布院、そしてキヤツチピースの連携で７月頃から始まる。名護沖には、ジュゴンが定着していると言われ、岩国の藻場には、瀬戸内海でも珍しくなったタツノオトシゴが確認されている。これらの海を守り、次世代につないでいくためにも、海兵隊はいらないと言う運動にも協力をお願いしたい。

岩国基地滑走路沖合移設
護岸基礎工事始まる

（00.6.12）



基地沖に基礎石を投入するクレーン船

米軍岩国基地の滑走路沖合移設事業で、護岸工事に取り掛かるため海底の基礎を固める石の投入作業が十一日、基地沖の海上で始まった。

今回行われるのは、計画地南側水面に長さ四百五十㍍の護岸工事をするための基礎工事で、重さ百㌔以下の石を四万五千立方㍍敷き詰める。この日の作業は午前七時五十分に始まり、米軍の許可を得て基地水域に入った台船や大型のクレーン船が、石を次々と海に投入した。工期は十一月三十日まで、事業費は約四億八千三百万円。

滑走路沖合移設事業は、現滑走路の延長線上にある工場群での事故を回避し、騒音の軽減も図る目的で昨年六月一日に起工。基地沖二百十五㍍を埋め立て新滑走路を増設する総事業費約千六百億円の大型事業で、二〇〇五年の完成を目指す。滑走路増設で、基地の機能強化を懸念する声もある。

稚ナマコの分布からみた自然海岸の重要性

浜野龍夫
(農林水産省 水産大学校 生物生産学科 助教授)

マナマコは，食用として瀬戸内海各地で漁獲対象となっており，特に冬場の漁家の収入源として高い評価を得ている。このため，瀬戸内海沿岸の各県の水産試験場ではその増殖を目的として研究を実施しており，併せて，栽培センターで種苗を生産し放流している。

著者らが山口県の瀬戸内海側の沿岸で行った調査の結果，天然の潮間帯（干潮によって干上がる部分）が稚ナマコの生息場として重要であることが明らかになった（網尾ら，1989； 浜野ら，1989）。また，広島県の沿岸部についても，マナマコの増殖にとって天然の潮間帯が重要であることを表す実例がある。著者は，1990年12月の夜間の大潮干潮時に，広島県大野町およびその対岸の宮島町の潮間帯で稚ナマコの分布調査を実施した。その結果，大野町側の人工の海岸線の潮間帯では，14～58 個体／100 ㎡しか採集されなかったのに対し，宮島町側の天然の海岸線の潮間帯には，100 個体以上／100 ㎡の地点が，調査４地点中３地点もあった（図１）。

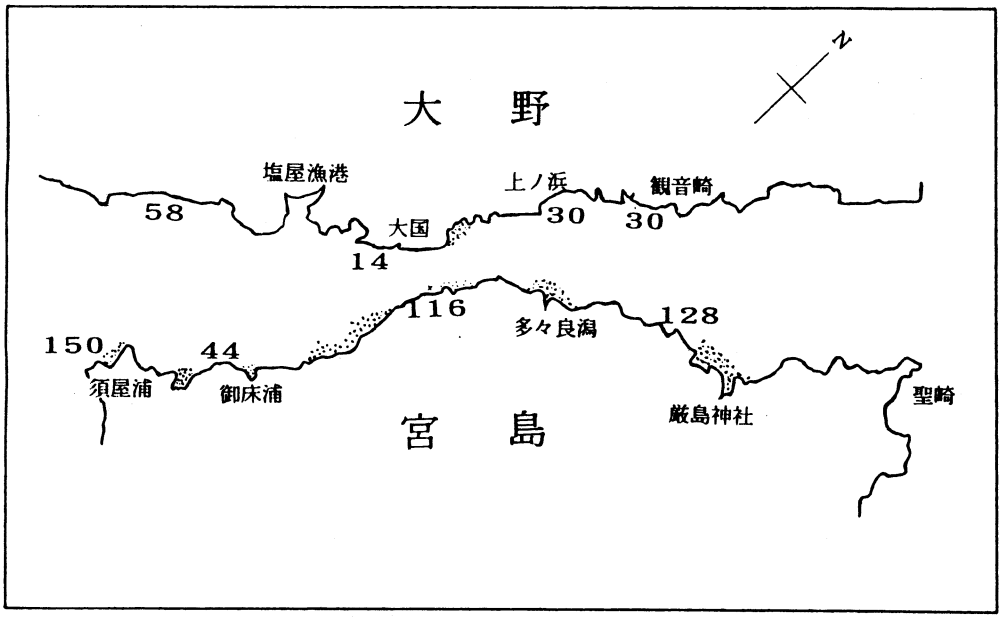


図１　1990年12月、夜間の潮間帯でのナマコの生息数（個体/100m²）

ここでマナマコの例を出すまでもなく，天然の海岸線が有用魚種の保育場として大切な場所であることについては誰もが認める事実である。遠洋・沖合漁業が諸般の事情で先細り，沿岸漁業の振興が盛んに謳われる昨今において，その漁場を支える生命の源を崩すことは，沿岸漁業を軽視する矛盾した施策である。その代替措置として創造された単純な環境が，天然の海岸線に勝る保育場となりえる保証はない。従って，水産振興を推進する立場にいる者としては，いかなる理由があるにせよ，天然海岸線の破壊には反対する。

愛媛県 弓削島から瀬戸内海をみる

――瀬戸内法改正プロジェクト学習会開かれる――

◆5月 9．10日、弓削の自然を考える会（代表：田中布由子さん）のお世話により、弓削島で学習会を行いました。また、ゴルフ場開発が凍結された久司山の立ち木トラストの、古くなった札の架け替えも同時に行いました。

◆「瀬戸内法」が、瀕死の瀬戸内海を救おうと成立してから 25 年。「世界でも比類ない美しさを誇る景勝地として、漁業資源の宝庫として後代に継承すべきもの」とうたった瀬戸内法のもとで、海は回復したか、、、弓削島で考えようと 17 人が集いました。

◆環境庁は、瀬戸内海の回復のためには、従来の「規制型」施策では難しいと、「新たな環境保全・創造」のあり方を諮問中で、9月初めにも答申を受けようとしています。

◆岩国基地沖の藻場は、環境庁が「消失する藻場・干潟の代償になる藻場・干潟の造成」を条件に埋め立ての許可をおろしました。神戸空港についても環境庁は「緩傾斜石積護岸」などの計画を取り上げ「環境改善において、、、役割を果たす」として、埋め立てを許可しました。

◆以上のような環境庁の方向性を「新たな環境創造」と呼ぶとすると、この新しい施策は今後の瀬戸内海における「開発」の免罪符となりはしないかとの意見が多く出されました。

◆当プロジェクトとしては、瀬戸内法の下での25年を、もっと緻密に検証し、埋め立て・廃棄物・海砂採取などの規制の強化（瀬戸内法改正）こそ今必要なのではないかと話し合われました。

◆弓削島で見た至る所での小規模埋め立て、景観を壊し、役目を果たしているとは思われない消波ブロックや離岸堤、十数年前にはたくさん採れたあさり等貝類の全滅など、瀬戸内法改正のための具体的な課題を考えるきっかけともなりました。

弓削島の海岸を案内する塩見美保子さん
島の回り至る所に消波ブロックが置かれている

久司山の立ち木トラストの札を架け替える

自然石を使って、離岸堤の工事中

美しい浜を埋め立てて作った色鮮やかな公園
に人影はない

8年目の弓削島

（播磨灘を守る会）　青木　敬介

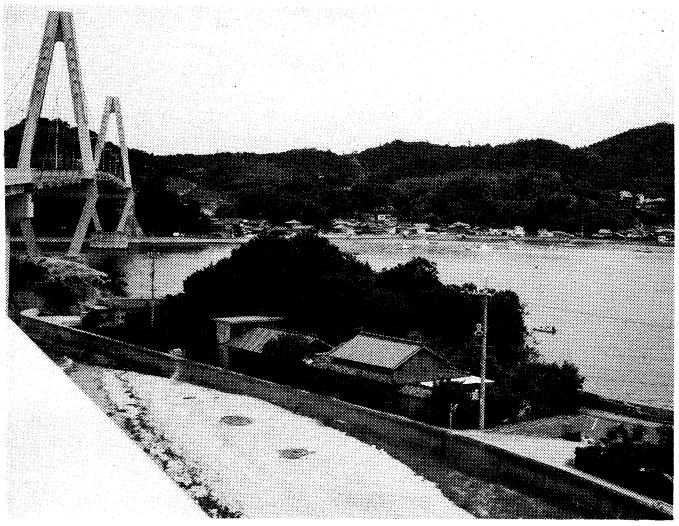
雨もよいの弓削港に船が近づくと、8年前の記憶にない橋が、弓削島と佐島をつないでいた。見おぼえのある港の後ろの石灰山の白い崖は変わっていない。港から古い町並みをぬけて松原に出、まだ元気な松の林を通り、商船学校の校舎を横に見て「ゆげロッジ」への急坂を上る。以前はなんなく上ったこの坂道だが、今回は息が切れる。

「ゆげロッジ」の窓から見る松原海水浴場の北寄りに消波ブロックの離岸堤が2本できて、風景を壊している。逆に、南の浜都漁港の奥が埋立てられて、砂浜だった所がコンクリート岸壁になっている。8年前には、あの砂浜を歩いて、アジ藻やホンダワラを拾ったし、港を囲う防波堤工事が進捗していた。一見、平和なたたずまいのこの美しい島も、目に見えない処で随分変わってきているようだ。

ロビーで、今回の「瀬戸内法改正プロジェクトチーム」学習会出席者の顔合わせをする。香川大学の村上先生外17人。法改正の大きなポイントである海砂採取は、今年2月、竹原の吉田さんたちの努力で、広島県が禁止に踏みきったことで、この先やや見通しが明るくなったが、埋立てと産廃持ちこみなどの問題は、相変わらず無制限に進んでいる。「瀬戸内法」の改正で、これらの全面禁止を一日も早く実現させたい。

1日目（5月9日）午後、地元の田中さん、塩見さんの案内で、車に分乗して佐島と弓削島全域を見てまわる。

大橋の上から見た海は、透明度がかなりあり、所々にホンダワラの群落が見える。磯近くの岩場でもそれは同様だった。しかし、驚いたことに、およそ高潮や波浪の被害など考えられない浜辺にまで、高い防波堤を張りめぐらせ、その前面に殺風景な消波ブロックが積みかさねられている。



全国津々浦々に無用の防潮堤を築いたのは、防災に名を借りた建設省の陰謀で、盛大な国費のムダ使いであったが、立派な砂浜にまで消波ブロックを積みあげるのは、海浜植物などの生態系の破壊をもたらす県費の浪費である。それらの渚を歩いて、少し気になったのは、砂の下がすぐ泥になっていることで、これは何らかの理由で表面の砂が洗い流されたのではないかと思われる。

もう一つ驚いたのは、弓削島北部の引野から上弓削港にかけて、やはり消波ブロックの離岸堤を、海岸道路から50～60 m沖に点線状に入れていること。塩見さんの話によると、これをつくってから、それまであった砂が流出して礫浜になったという。普通、離岸堤を入れると、その内側に砂が溜まるものだが、ここは他所とは違った条件（例えば潮流など）が働いたのではないか。その辺の事前の調査がズサンであったようだ。

島を巡りながら聞いた話をつなぎ合わせると、どうやらこの島では町行政と議会、それに地元建設業者とがガッチリ結びついて、まさに三位一体の構造をつくっているらしい。港湾整備の名目で埋立てた町の土地が、建設会社の資材置場になっていたり、前述のような無用の工事が行われたり、やっとくいとめたゴルフ場の予定地のそばの要所要所をその建設業者が取得していたりする状況は、ちょっと常識では考えられない。そのような状況の中で、数少ない女性たちがこれに抵抗して活動しておられるのは頭が下がる。

しかし、塩見さんたちが心配しているこの島の海岸の破壊は、まだ致命的ではない。前の「三位一体」の構造を改めると共に、消波ブロックの離岸堤をとっぱらえば元の砂浜は回復するだろう。地元の方々が、少しでも仲間を増やし、元気で息長く頑張ってくださることを念じよう。（1998．5．21）

香川県直島町福武(ベネッセ)ゴルフ場計画中止を記念しての座談会

ベネッセコーポレーション（岡山県）が、直島で進めていたゴルフ場計画は、開発手続申請が取り下げられていることが5月中にわかり、中止されることが確定しました。7年間の劇的な運動を続けてこられた「直島の水と自然を守る会」のメンバーに集まっていただき、お話を聞きました。(5月26日)

那須茂、瀧本京子、堺谷敏子、中村峰子、花岡由美子（敬称略）

花岡幹大、堺谷末広、蓬清二、那須澄雄（会代表）、那須陽子

＜いきさつ＞

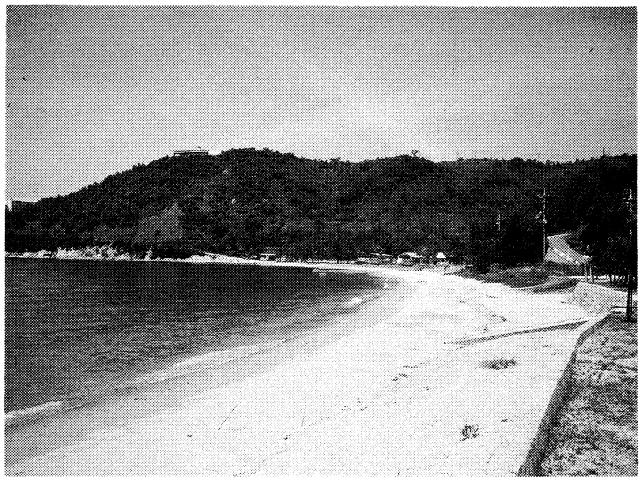
●91年10月に町議会の全員協議会で、福武書店から説明があったのが、私たちが耳にしたはじめてだったね（当時蓬さんは町会議員）。その後住民説明会があり、学校の裏山で、島の水源近くでもあったことから、京山地区の人たちが反対の声をあげた。

●それで、会をつくることになったのだけど、島にとっては前代未聞、島始まって以来の住民運動になった。翌92年11月に環瀬戸内海会議の立木トラストをして、千本を越える木にオーナーの方の札をかけた。これが今回の計画中止をひきだす決定打になったね。

＜直島町の対応＞

●だけどそのときの町長は、9期36年町長の座を誇り、絶対権力で町から各戸に日の丸の旗を配布するような人で、いろいろと運動つぶしをやったね。

●当時の町の広報誌をみると「反対運動をしている」のは「精錬所労組幹部を中心とする一部の人」と決めつけ「立木トラスト運動で、関係のない人の土地の立木までも無断で売買している」と書き、「同じ土地を提供されるのでしたら、立木トラストより町の発展のために」と呼びかけているのだからすごかったよね。



93年9月に集会をした浜辺

(砂浜が削られ異質な砂が入れられていた)

●町の方は、町長の力で何でもできるとタカをくくっていたし、　私たちの運動の方もこんな中で運動が成功するとはあの頃思わなかった。孫の代に今の自分らの行動が問われると考えてやっていたけど。

●「反対運動している人を解雇してほしい」と町長が言ってきたと後で聞かされたこともあった。

●島の人から「那須についていったら、ドンパチカエル(大変な目にあう)」といわれたり、無言電話や「『小豆島』（那須さんの故郷）に帰れ」と言われたり、家族ということでなんでこんな目にあうんやろうと思ったけど、そのうち、「正しいことをしている」と、開き直って、今ではよい仲間もできたことを感謝しています。

●９３年９月の環瀬戸内海会議の集会の時は、大変だったよね。２ヶ月前に徹夜して予約した町営の「つづじ荘」を集会の前夜になって「貸さない」と言ってきた。理由は「町の方針に反する集会」であると堂々と言う。結局宿泊は許可されたけど、集会はさせないと言うので、あの猛暑炎天下の浜辺でゴザを敷き学習会をやったよね。

●皆さんに申し訳ないやら恥ずかしいやらでしたね。

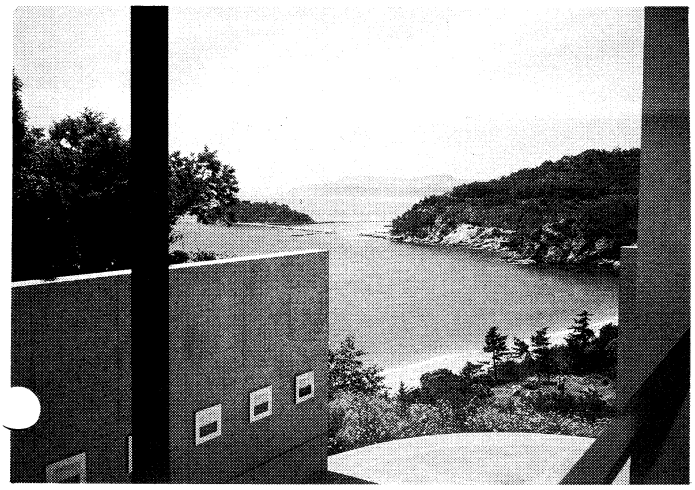
＜ベネッセ・プライベートリゾート＞

●ベネッセが、島の一番美しい一帯を町から譲り受けて関係者以外立入禁止の札を出し、ホテルやリゾート施設で海辺を囲んでもう１０年になるね。

●この施設のつながりでのゴルフ場計画だったわけだし、美術館を併設することで、ホテルにも入場料を出さなければ入れないしくみになってるのよね。（現在島民は無料）

●国立公園の景観を私有化しているとしか思えないし、環境庁の指導で、一部のフェンスは撤去したけれど、やっぱり島の人は近づきにくい場所になっているよね。

●ともかく島の中のいちばんよいところを一企業に取られてしまった感はぬぐえないね。その上、この土地のない島でのゴルフ場計画だったわけで、中止に　なってほんとうによかったと思う。



「ベネッセ」ホテルからの「プライベートな」ながめ

＜運動成功のカギは＞

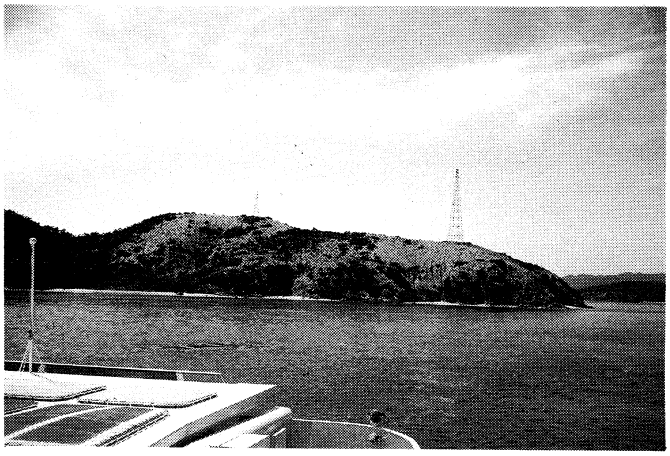
●リーダーに恵まれていたし、メンバーがよかった。少人数ながらずっと結束を崩さなかったからね。

●環瀬戸内海会議とのつながりも有難かった。はじめてトラスト運動の説明に来てくれた時、島の外から新しい風が吹いてきて、何かがガラッと変わったように思った。「楽しくやりましょう」と言われて、気持ちも楽になりました。

●はがき作戦もよかったね。福武の「進研ゼミ」の入会申込の返信用はがきを利用して、全国からゴルフ場反対のメッセージを福武に送った。何千枚も送られたのではないだろうか。福武に送料を払ってもらってね。

●後で福武内部の人から、「会社もあれにはまいっている」と聞いたよね。オーナーの皆さんに感謝しています。

＜これからの運動＞



会のメンバーがどんぐりまきをしている荒神島

●反対運動だけでなく、緑を守るために何かしようと、５年前から、トラストの山や荒神島に、どんぐりまきをはじめました。どんぐり銀行から、うばめがしやくぬぎのどんぐりを送ってもらっています。

●土がむき出しになっていて、根づきの悪いところだけど、次　の年に行って小さな芽が出たり、少しずつ育ったりしているのを見ると感動するよね。

●足腰の立つ間は続けようと思っています。

●私たちの運動は、直島で地方自治を問い、デモクラシーに一石を投じた出来事だったと思う。まずは仲間とともに喜び、環瀬戸内海会議，オーナーの皆さんにお礼を申し上げたい。

●環瀬戸内海会議の最近の動きは、「瀬戸内法」などがでてきて、少しわかりにくい部分もあるけれど、みんなで共有できる問題をわかりやすく提起してもらって、今後もいっしょにやっていきたい。

「久しぶりの集まり」と言いながらいきもぴったり。楽しい座談会になりました。この方たちがおられてこその直島の運動と、その成果であったのだと思いました。長い間お疲れ様でした。ありがとうございました。

（阿部）

報告　アースデイかがわｉｎ豊島

４月19日のアースデイかがわｉｎ豊島、地元の豊島活性化プラン推進協議会や、私たち環瀬戸内海会議など中四国の二十三団体でつくる実行委員会が主催して豊島全域で開催された。

『豊島で考えよう未来ある暮らし』を目的に呼び掛けられたアースデイには、島内外からの約千人が参加した。香川・岡山のみならず愛媛・徳島・高知・広島・島根・大阪からも参加があった。

午前10時、アースデイ開会式会場となった豊島小学校体育館は、びっしり満員、昨年をはるかに上回った。地元婦人部の方も大勢出張ってくれ、会場入口で豊島の郷土料理・黒豆入りおこわなど入ったおむすび弁当の販売で出迎えてくれた。

開会式会場風景

開会式では豊島住民会議の石井亨さんが講演、「不法投棄を容認する香川県行政の無責任と、大量生産・大量消費・大量廃棄のうえに成り立ってきたこの社会の仕組みは将来の可能性を使い捨て、次世代に借金清算の責務を残してきた、その象徴が今の豊島である。市民一人一人が責任をもって考え、どう行動するかが問われている。そして住民として13年後の豊島を担保するため、県、県議会の姿勢を変えていきたい」と訴え、幕開けした。その後参加者は不法投棄現場視察、未来の森ドングリまきハイキングや環境展など盛り沢山なメニューに分かれて行動。

私の行った未来の森は、家浦港近くの墓地跡・八幡神社付近の植樹地にはまんりょう、昨年クヌギ等を植樹した神子ケ浜の山にドングリと分かれて植樹。家浦の墓地跡・八幡神社には、地元の方と午後から参加の岡山・広島勢合わせて約三十人が参加。神子ケ浜にはわらび採り等のグループも合わせて約三十人が現地までハイキング。今年のツツジはやや盛りを過ぎていたが、中に踏み入ると昨年植えたクヌギなどがしっかりと新芽を出していた。初参加者も多く、神子ケ浜から現場への搬送、苗木の多さにあわただしい作業になったが、ツツジの花見、わらび採りもでき結構楽しんでもらったのではないか。

今回は初めて豊島を訪れた参加者が本当に多かった。午後３時半すぎアースデイしめくくり「エンディングコンサート」も終わろうという時に、やっと現場から戻った石井さん、講演後現場へ出向き、地元の三人と現場説明役を勤め、マイクロバス二台で次々と訪れる見学者約二五〇人への説明に息つく間もなかったとか。それほど初参加の人が多かった証しだろう。

見送り風景（家浦港にて）

石井さんはじめ地元の皆様本当にご苦労さまでした。島の方たちにとって２月以降、中間処理施設設計のためのサンプル採取・搬出、溶融処理実験への立合い、その合間の島内集会や弁護団会議と、超過密日程の中でのアースデイ、本当にご苦労さまでした。

後日５月４日、豊島で反省会が開かれ、来年もぜひやろうと話し合われた。私たち環瀬戸としても、「未来の森」をどう育てていくのかを豊島の皆さんと議論を交え、来年のアースデイにも取り組みたいと思う。

（1998, 6, 1　環瀬戸内海会議ゴミプロジェクト　松本宣崇）

朝日新聞　第3種郵便物認可

カヌーで島を一周し、自然を体験する参加者ら

アースデイ朝日

豊島の投棄現場ショック

600人 島外から参加 地球環境考える

地球環境の保護を求める国際連帯行動「アースデイかがわ in 豊島」（同実行委員会主催）が十九日、小豆郡土庄町豊島であった。四国をはじめ、東京、大阪など島外から約六百人が参加し、産業廃棄物が不法投棄された現場を見学しながら環境問題について考えた。

午前十時から豊島小学校体育館であった講演会で、廃棄物対策豊島住民会議の石井亨さん（三六）が、産廃が不法投棄され続けた理由や、地球環境問題の課題などについて説明した。

石井さんは、「ごみの投棄ではなく金属の回収」という産廃処理業者の言い分を、警察の摘発を受けるまで県が認めたことなど、行政の姿勢を批判。「産廃問題はエイズや沖縄米軍基地問題と構造は同じ。住民が自分で考えて結論を出すという国民主権に根ざした地域づくりが、地球環境問題の解決に求められている」と話した。

産廃の投棄現場で、廃棄物対策豊島住民会議の石井亨さん（右端）から説明を受ける参加者ら＝いずれも小豆郡土庄町豊島で

顔しかめ写真撮影

このあと、参加者たちは三台のマイクロバスに分乗し、島の西にある産廃現場を見学した。

大川郡大川町に住む中学二年の松尾美佳さん（一四）は「テレビで見たことはあるけれど、こんなにひどいとは思わなかった。学校でつくる新聞に書こうと思っています」と、産廃の山からあたりに広がる強いにおいに顔をしかめながら、写真を撮っていた。

（未来の森トラスト 98/4/19　アースデイかがわ in 豊島にて）

私にとっては初めての豊島でしたが、この未来の森トラストが、地元の人たちと全国のトラスト参加者の想いをしっかりと結ぶものになると感じました。アースデーのこの日は、ドングリまきハイキングのグループは、昨年植樹した木への札かけとドングリまき・クヌギやウバメガシの苗木を植えました。家浦にも未来の森をつくる場所があり（上の写真）、苗木を植え、まんりょうなどの種をまきました。全体では、約 60 人の参加者がありました。島外から多くのゴミが持ち込まれたこの豊島に、全国の人たちの支援で、未来の森をつくることは、豊島の人たちにとっても大きな心のささえになっていると感じました。一本一本を力強い木に、そして大きな森にしていきたいです。

（環瀬戸内海会議　未来の森担当）愛媛県今治市　木村伸樹

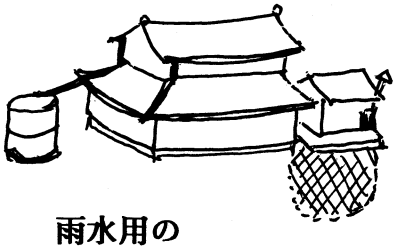
第９回総会に向けて広瀬からの報告

広瀬の自然と環境を守る会　青年部

『天空の郷・広瀬』の見学を含めて６月２７日・２８日と「子らに伝えよう瀬戸内の山と海」と言うテーマで総会が行われる予定ですが、我が広瀬では約２０年前より産業廃棄物のゴミが捨てられ始めました。
過疎になり、そしてついには人の住まなくなった山間部の集落の跡は残土捨て場とゴミ捨て場と化しています。
加茂町（通称・広瀬）の芋原地区は少し上流にある溜池を水源とした簡易水道が設置されていますが、広瀬の他の地区の集落はこの簡易水道さえありません。
それ故にこの地区の人たちは大変水に敏感であり、水を有効に大切に節約しながら使用しています。
それぞれ近所の家、２～４軒が共同で谷間の湧水を汲み上げて使用していますが、雨水も溜めて生活用水として活用しているのです。
そんな広瀬に又一つゴミ捨て場が増えようとしています。
昨年１２月、西福開発の産業廃棄物設置申請に許可が出ました。
そして、又飲める水がなくなっていくのです。

今までは、加茂川水系に流れ込む源流となる川で汚染されずに安心して飲めるのは四川の上流の谷尻川、唯一つでした。
この川沿いに西福開発のゴミ捨て場の許可が下りたわけです。
これでいよいよ四方を残土捨て場とゴミ捨て場に囲まれ、簡易水道のある溜池の谷間から芋原集落の区域までの水のみが汚染されずに飲める状態で残っているのと、各集落の谷間の水のみが残されているだけとなりました。
もうギリギリの所まで来ているのです。
これ以上、ゴミ捨て場が増えたり、ひと山越えて汚染された水が流れ込むだけで芋原地区にある中学校・小学校・公民館・郵便局・老人センター、そして各住宅の水に不安が発生し、毎日飲む水が汚染されると、汚染の程度に関係なく化学物質は体内濃縮され蓄積していく物だけに、結果的にはいずれこの地域に住めなくなるのです。
この芋原は広瀬の中枢であるだけに、機能がマヒすると当然他の地区の過疎化に拍車がかかりやがては無人の地域になることも予想されます。
現実にこの広瀬の東側の東谷と言う地区は人の住まない、住めない地域となっています。

水道のない菅町の集落には、フロの下に落とし水が出来るように穴を掘り、雨どいを貯水タンクにつないだ光景が各家で見られます。
こんな日本の暮らしの原点のようなのどかな地をゴミや残土で埋め立てて行くことは、日本人の感性・生活の根っ子を失っていく事になるのではないでしょうか？
今、広瀬の自然と人々は苦しみもがいています。
一人一人の思いは広瀬や自然を大切にしたい気持ちで一杯なのです。



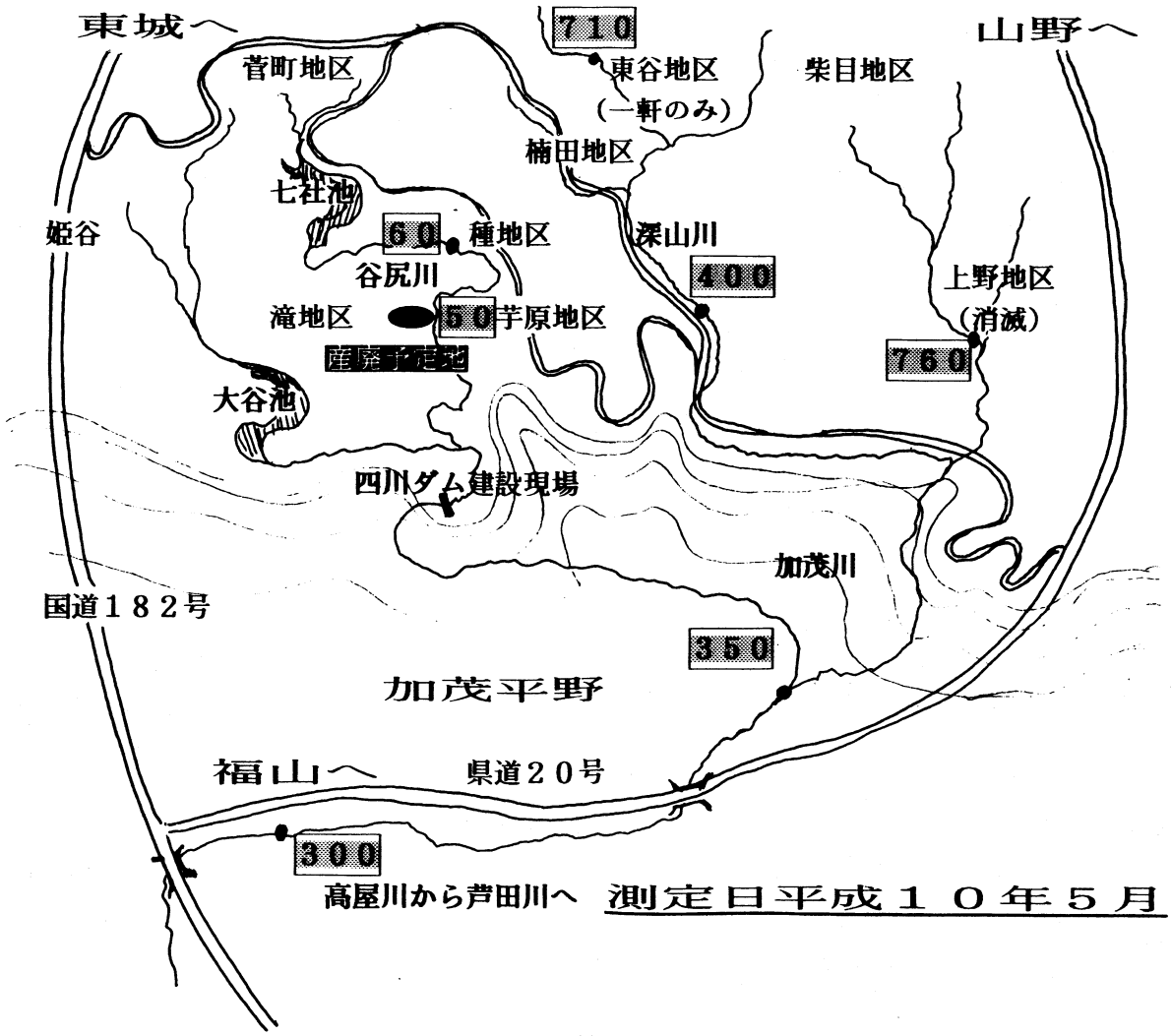
雨水用の貯水タンク　　フロ水を溜める穴

ところが、この気持ちが無視されて今や産廃の許可が出てしまい、これ以上のゴミ捨て場はイヤだと言う思いは、ゴミ捨て場反対の意思を通り越して悲痛な気持ちと精神状態を生み出しています。

皆様にはお礼の挨拶が遅れましたが、立ち木トラストのご協力に紙面をお借りしてお礼を申し上げます。
本当にありがとうございました。
引き続き立ち木トラストの継続はしていますので、よろしくご協力をお願い致します。
総会にご参加予定の皆様には広瀬の現状を見ていただき、認識して頂きたく広瀬の自然と環境を守る会青年部はお待ちしております。
現実に広瀬には、規模的に豊島を例にすると大きさだけで見ても同じ規模の産廃場や残土捨て場が、予定地を含めると６～７ヶ所も集中しているのです。
私たちは住民として、「守りたい天空の郷・広瀬」であると同時に、日本人として日本の素朴な生活の原点も守りたいと切に願っています。

電気伝導計による水の伝導率の測定結果

（水にイオン化された不純物が多くなるほど電気が流れやすくなる性質を利用して測定する物です。通常汚染されてない数値は３０～７０位です。）



第9回総会・交流会ｉｎ福山のご案内

子らに伝えよう瀬戸内の山と海
守りたい天空の郷「広瀬」（9.10P参照）

日時：１９９８年　６月２７日（土）・２８日（日）
場所：福山市加茂町「広瀬」（現地）
　　備後ハイツ（交流会・宿泊）

２７日　１１：００　ＪＲ福山駅北口集合
　　１２：００　産廃処分場見学
　　立ち木トラスト札かけ
　　現地集会
　　１７：００　交流会・宿泊（備後ハイツ）
２８日　　９：００　各県交流
　　１３：００　環瀬戸内海会議総会
　　１５：００　終了・解散

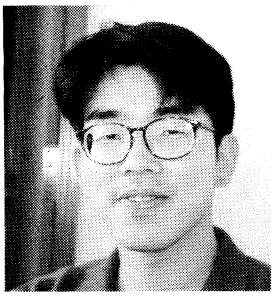
連絡先：実原 進　Tel. 08476（2）3717
　　当日は、020（29）39559
　　備後ハイツ　Tel. 0849（41）3922

各県交流
海砂問題　吉田 徳成（竹原）
廃棄物と水生生物　藤岡 義隆（呉）
芦田川水系の環境問題　林　勤（新市）
豊島・直島・牛窓・田房ダム・岩国の各地から

お世話くださるネットワーク芦田川は、その上流から下流までの楽しく豊かな運動の交流が各地の仲間を魅了してきました。産廃問題のある現地の広瀬は過疎対策のためのユニークな試みや、地域の人々の優しい交流があり、多くのことを語りかけてくれます。上下町の神楽のアトラクションも楽しみです。ぜひ御参加ください

＜はじめまして＞

尾原 義則さん（豊島未来の森トラスト担当）



豊島の運動の事務局専従として、豊島住民になって５ヶ月、昨年12月までの一年余りを豊島小学校の講師として過ごしながら、豊島の運動に関心を持ち、新しい生き方を求めての選択です。

今は、「非常に面白い毎日」と表現、「そのおもしろさとは？」「おかしいと思うことにノーと言えること。疑問に思った事を行動に移す事ができること。毎日のように起る『事件』の中で、学ばざるをえないこと」と答えた。

豊島では今「各部落で小地区座談会を開催して、５～６人の島民の集まりを持ち、本音で島の再生に向けてのビジョンを話し合っています。」

豊島は「住民自治」の実験場として瀬戸内での大きな存在。その未来を明るくしてくれる29歳の「とてもいい感性の持ち主」（石井さん評）です。

「みなさん、豊島に未来の森をつくるために、ご協力ください。

＜おねがい＞

岩国基地沖の藻場で、捨て石投入の工事が始まりました。（１Ｐ参照）至急、下記へ抗議のハガキを！

宛先：〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2
　　環境庁長官　大木　浩
　　〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-45
　　防衛施設庁長官　萩　次郎

追加はがきの注文先：〒799-2469 北条市光洋台1-27
　　中村ミヤ子さん Tel089-994-1809
　　（５枚 300円・10枚 500円）

＜編集後記＞

５月には、弓削島（愛媛県）、豊島・直島（香川県）に行く機会を得ました。三つの島には、各々悩みを抱えながらも、共に希望を語り合える嬉しい出会いがありました。

それにしても気になったことは、どの島も砂浜の後退が著しいこと。また、どの島の人々もこの十数年でアサリなどの貝がすっかり姿を消したと話されたことです。　海砂採取などの影響もあることでしょうが、何とも不気味に思えます。瀬戸内海再生のための人々のつながりを、益々大きくして行きたいと思いました。（阿部 悦子）

瀬戸内トラストニュース　第１６号　１９９８年　６月１０日発行
環瀬戸内海会議代表　阿部 悦子
〒７９４－0026　今治市別宮町　９－７－４　TEL　0898－３２－０１００　FAX　0898－２３－９１６２
広島事務局「森と水と土を考える会」気付
〒７３３－0022　広島市西区天満町　９－８